

保育内容研究室（川合 沙弥香）

▶どのような研究や活動に取り組んでいますか？

乳幼児期の子どもたちが、感じたことや考えたことを自分なりに表現する喜びを味わえるよう、どのような環境や保育者の援助が必要か、について研究しています。表現技術を教えこむのではなく、子ども一人ひとりが内なるイメージを豊かに広げ、安心して自己発揮できる、そんな保育を目指し、保育者として実践を重ねてきました。その中で、人形などの“モノ”に自身の想いを投影して遊ぶ子どもの姿に着目し、身の周りの様々な“モノ”を活かして、子どもの表現を引き出す方法について探究しています。表現というと、外にあらわれた現象面に囚われてしまいがちですが、低年齢の子どもの表現を捉えるにあたっては、自己投影的な表現における内面活動に着目することが特に重要であると考えています。現在は、主に造形表現に関する授業を担当していますが、結果としての作品の出来不出来を評価するのではなく、描いたり、作ったりする過程における心の動きを大切に授業を行っています。

▶この研究室やゼミ（4年次）のことについて教えてください。

乳幼児の「造形表現」に関するテーマを中心に、絵本や人形など、保育教材の製作を主とした内容を扱います。各自が構想した成果物は、保育現場等のフィールドにおいて実践し、ゼミ生間での議論を通して、考察を深めていきます。自分の考えをしっかりと持ちながらも、他者の声に耳を傾け、研究テーマに対して真摯に取り組める方の参加を期待します。子どもの心の扉を開き、中に迎え入れてもらえるだけの魅力を持った保育教材とはどのようなものか、共に探究していきましょう。

▶もっと知りたい方へ（参考資料）

- ・保育における人形劇の応用と課題 一人形による親密性の生成プロセスに着目して一、保育文化研究, (8), 11-24
- ・造形教育における「作って演じる」表現活動の一考察 一子どもの遊びを中心に据えた表現活動を構想できる保育者の育成を目指して一、東京家政大学 教員養成教育推進室年報, (11), 41-50